

2024 年度

事業報告書

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

公益財団法人 日本補助犬協会

2024年度は、改正障害者差別解消法施行の中、公共交通機関等からの要請を受け「障害の社会モデル」を基礎とする合理的配慮に関するセミナー及び接遇セミナーを開催した。また、第83回障害者政策委員会で意見が出された「心のバリアフリー」推進については、ユニバーサルデザイン2020行動計画評価委員及び心のバリアフリー分科会委員として政策に関わった当事者として、国土交通省へのヒアリング協力や心のバリアフリー検定の実施等、推進活動に今も尽力を続けている。

補助犬育成関係では、身体障害者補助犬認定審査会において対面と一部オンラインによるハイブリッド式を昨年に引き続き取り入れ、補助犬希望者及び認定審査員の負担軽減を図りつつ、審査会での円滑な認定を行うことができた。

当協会が長年取り組んでいる自立支援事業については、補助犬を活用した認知症患者へ犬を介入させる医療ファシリテードッグ、東京大学教育学部附属中等教育学校への教育ファシリテードッグ派遣、日本で唯一の自閉症児支援犬セッションを実施する等、その活動を継続させた。それにともない、多くのマスメディアから取材依頼を受け、「人と犬の共生社会」実現、ひいては「補助犬受け入れ拒否0」実現のための啓発に努めることができたと考えている。

対面での啓発活動は増え、コロナ禍で進んだオンラインについては、セミナー等で対面とオンラインを同時に行うハイブリッド式を積極的活用するなど、地域格差なく情報にアクセスできるよう努めた。

◆公益事業実施状況

補助犬育成・貸与・認定事業

1. 補助犬(及び候補犬)の育成・認定及び貸与

- 1) 次のとおり、補助犬3頭の育成・認定を行い希望する身体障害者に貸与した。

当協会が育成・認定した補助犬 3頭

盲導犬 2頭 神奈川・山梨

聴導犬 1頭 新潟

2) 身体障害者補助犬認定審査会開催状況

次の通り開催した。

令和6年12月1日 認定頭数 聴導犬1頭

2. 補助犬ユーザー(使用者)に対するフォローアップ

補助犬ユーザーと補助犬の生活の質及び補助犬作業の質の向上を図るため、次のとおりフォローアップを行った。

1) フォローアップ

- ・全補助犬ユーザーからの定期報告書および補助犬健康診断書の提出(4月～5月)
- ・盲導犬ユーザーに対するフォローアップ
 - 来所・訪問 9人 延べ 18日
 - 電話・メール 12人 延べ 31回
- ・介助犬ユーザーに対するフォローアップ
 - 来所・訪問 6人 延べ 23日
 - 電話・メール 6人 延べ 31回
- ・聴導犬ユーザーに対するフォローアップ
 - 来所・訪問 11人 延べ 33日
 - メール・FAX 23人 延べ 46回

2) 補助犬希望者の相談業務

- ・盲導犬希望者の相談 2人 延べ 3回
- ・介助犬希望者の相談 7人 延べ 10回
- ・聴導犬希望者の相談 2人 延べ 14回

3. 補助犬候補犬の導入並びに繁殖、関連事項

1) 補助犬候補犬、繁殖犬導入

海外の盲導犬協会より候補犬3頭を導入した。
いばらき盲導犬協会よりパピー1頭を導入した。

2) 聴導犬候補犬確保のための外部からの導入

国内の支援者より3頭の候補犬を導入した。

4. パピーの育成

パピーファミリー(仔犬飼育ボランティア)に委託している将来補助犬になり得る仔犬の飼育は、「社会化」と「月齢に応じたきめ細かいしつけ方」についてパピーの発達段階毎のサポートを行った。

・委託状況

5頭

・サポート方法

電話、メール、しつけ教室の開催、訪問等

電話・メール相談 34回

しつけ教室の開催 3回

訪問 5回

5. 引退犬の支援

15 頭の引退犬に対して協会医療室にて健康管理をサポートすると同時に引退犬ボランティアに対して老犬に対する飼育相談等を行った。

- ・医療室の利用 5件
- ・来所・訪問 16 回
- ・電話・メール相談 58 回
- ・医療費支援
- ・介護用品の貸し出し
- ・老犬ホームの施設整備
- ・訓練センターにて月 1 回程度のシャンプー

6. 職員の養成

職員に対し、日々の OJT とともに月 1 回の手話教室を開催し手話検定を受験した。その他、同行援護従事者研修を 2 名が受講した。
また、聴導犬訓練士資格を 1 名が取得した。

自立支援事業

1. 医療ファシリティドッグ

社会医療法人栄公会との連携協定に基づき、佐野記念病院及び栄公会グループ施設において、医療ファシリティドッグによる動物介在療法 (AAT) 他を行った。専門的で高度な活動を実現するために、訓練士 1 名を常勤で派遣した。

2. 教育ファシリティドッグ

東京大学教育学部との連携講座に基づき、東京大学教育学部附属中等教育学校へ教育ファシリティドッグを派遣した。

3. 自閉症児支援犬

自閉症児に対し、社会化訓練及び日常動作訓練を目的に、自閉症児支援犬セッションを実施した。

補助犬啓発関係

1. 「第 12 回もっと知って補助犬キャンペーン」

- ・期 間 2025 年 2 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

補助犬フォーラムの開催 (2025 年 3 月 7 日、東京大学本郷キャンパス)

参加者 150 名

第一部では星加東京大学教授が「インクルーシブな未来創造連携講座」について講演、第二部では朴代表理事が「ファシリティドッグの育成と展開について」講演した。

2.心のバリアフリーあなたの提案による取り組み

1)企業・団体等における取り組み

- ・大塚商会

- 企業ファシリテイドッグ活動を実施 9回

- 心のバリアフリーセミナー(令和6年4月12日)

- ・マミーマート株式会社

- 「補助犬セミナー」(令和6年5月23日)

- 所沢山口店での啓発活動(令和6年6月22日)

- 募金箱コンテスト(令和6年10月18日)

- ・日興アセットマネジメント株式会社

- ファミリーデー(令和6年8月4日)

- ・ヒルズコルゲート株式会社

- ファミリーデー(令和6年8月23日)

- 補助犬介在教育セミナー(令和6年10月23日)

- ・イオンペット株式会社

- ペテモフェス(令和6年9月16日)

- ・東邦航空株式会社

- 補助犬受入れ検証(令和6年12月20日～21日)

- ・新中央航空株式会社

- 「補助犬セミナー」及び補助犬受入れ検証(令和7年3月17日)

- ・アクセンチュア

- 心のバリアフリーセミナー(令和6年12月3日)

- ファミリーデー補助犬啓発活動(令和7年3月20日)

- ・ライオン事務器

- 企業ファシリテイドッグ活動を実施 2回

2)学校教育における取り組み

- ・下記学校において補助犬及び「心のバリアフリー」普及を目的とした補助犬介在授業を実施

東京都品川区立源氏前小学校(令和6年6月14日)

神奈川県大和市立南林間小学校(令和6年11月11日)

大阪府吹田市立千里第三小学校(令和7年1月28日)

東京都港区立青山中学校(令和7年3月12日)

- ・下記学校において、教育ファシリテイドッグ活動を実施

東京大学教育学部附属中等教育学校 3回

3)一般市民を対象とした取り組み

①セミナー関係

- ・新宿区立戸山図書館での補助犬セミナー(令和6年6月2日)
- ・足立区立中央図書館での補助犬セミナー(令和6年6月16日)

②イベント・講演関係

- ・横須賀ふれあいフェスティバル(令和6年6月2日)
- ・HAMACHO Dog Fest 2024(令和6年10月14日)
- ・横浜愛護フェスタ(令和6年10月20日)
- ・墨田区すみだスマイルスマイルフェスティバル(令和6年12月8日)
- ・豊島区ふくしまつり(令和6年12月8日)
- ・湘南フィルハーモニー管弦楽団コンサート(令和7年2月16日)
- ・川崎市北部身体障害者福祉会館講演(令和7年3月26日)

2. 啓発活動の実施

・セミナー	18回
・イベント	23回
・見学	10回
・補助犬介在授業	8回
・ファシリティ	17回
・AAE	11回

3. パンフレット・会報の作成・配布

当協会の組織概要・事業実施状況等に関する情報を発信することにより知名度の向上、支援者の発掘等を図るためパンフレット等を作成・配布した。

- ・パンフレットの配布

当協会のサポーター制度・寄付金の使途等に関するパンフレットをイベント等で配布した。

- ・会報の作成・配布

当協会の活動状況等について報告することにより、賛助会員及び募金箱設置の継続率向上、ひいては運営費の安定供給を図るため、会報「につぼけん通信」第24号を5,000部作成し、賛助会員、募金箱設置店、協力企業・団体に送付した。

また、増刊号を発行し、新たな事業展開としてファシリテイドッグ派遣活動についての報告をおこなった。

4. SNS の充実・活用

ホームページの新着情報及び Facebook では、これまで手が回らなかった日々の業務を、啓発活動を中心に、こまめに掲載した。また、Instagramを活用し、補助犬の日常生活の一コマを中心に写真・動画を掲載し身近な存在として補助犬を理解してもらえるよう情報発信の充実に努めた。その他、Facebook で、クラウドファンディングの広告を行った。

5. マスメディア等での情報発信

各種ファシリテイドッグ派遣を始動させ記者会見を行ったことにより、多くのマスメディアに取り上げられ、人と犬の共生社会の重要性と、補助犬の認知向上や当協会の活動について社会に広めることができた。

子供の情操教育活動

1. 東日本大震災被災地の小・中学校を中心に、東北地方の介助犬ユーザー、ボランティアが下記場所を訪問し、子供の情操教育活動を行った。

- ・令和6年5月21日 岩手県立紫波総合高等学校
- ・令和6年9月10日 盛岡市立城北小学校
- ・令和6年9月18日 平泉町立平泉小学校
- ・令和6年11月25日 平泉町立長島小学校
- ・令和6年12月9日 花巻市立花巻小学校
- ・令和7年2月19日 盛岡市立向中野小学校

関係団体等との連携

1. 姉妹校 Guide Dogs Victoria を訪問し、職員に向け「補助犬セミナー」を実施、パピーファミリーとの交流等を行った。

2. 横浜市との連携

「人と動物との共生推進よこはま協議会」委員として協議会に参画した。

3. 日本ヒルズコルゲート株式会社から社員派遣、および協会在所犬のドッグフードの提供を受けた。

加盟団体

- ・国際盲導犬連盟 International Guide Dogs Federation
- ・日本盲人社会福祉施設協議会
- ・全国補助犬育成・認定法人連合会

連携協定

- ・東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター
連携講座「インクルーシブな未来社会連携講座」補助犬との協働で拓く共生社会
- ・社会医療法人栄公会

運営上の課題解決に向けた取り組み

1. 経営会議の開催

円滑な組織運営を推進するため経営会議を 6 回開催した。

2. クラウドファンディングの実施

1) 「ファシリティドッグ育成サポートプロジェクト」を実施

し、187 名の方から 4,847,451 円の寄付収入を得た。

2) 「2024 補助犬育成サポートプロジェクト」を実施し、68 名

の方から 840,000 円の寄付収入を得た。

3) 「ほじょ犬育成応援プロジェクト 2025」を実施し、597 名

の方から 10,340,000 円の寄付収入を得た。

◆ 収益事業実施状況

商品販売事業

1. 補助犬チャリティー商品の制作・販売

協会オリジナルトートバッグ、アクリルキーホルダー、カレンダーを制作したほか、ボランティアの協力を得て補助犬チャリティー商品を制作し、イベント会場やオンラインで販売した。

2. 自動販売機設置

訓練センターに設置した自動販売機の売り上げに対する手数料収入及び募金型自動販売機からの収入を得た。

なお、2024 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成していない。

【参考】

◇理事会開催状況

開催年月日	主な決議事項
2024 年 6 月 3 日	2023 年度事業報告及び決算報告書の承認について 定款変更について
2024 年 6 月 18 日	代表理事、業務執行理事互選について
2025 年 3 月 21 日	2025 年度事業計画書及び収支予算書の承認について

◇評議員会開催状況

開催年月日	主な決議事項
2024 年 6 月 18 日	2023 年度収支決算書の承認について 定款変更について 理事及び監事の選任について

◇職員に関する事項

2025 年 3 月 31 日現在職員在籍状況(理事含む)

部署	職種	常勤			非常勤			計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
管理部門	総務・経理	1	0	1	0	3	3	1	3	4
補助犬育成 部門	指導員	0	3	3	0	0	0	0	3	3
	訓練士	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	研修生	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	獣医師・トリマー	0	0	0	1	1	2	1	1	2

普及啓発部門	広報・啓発	0	0	0	1	0	1	1	0	1
計		1	5	6	2	4	6	3	9	12

注) 業務委託、派遣社員含む

◇施設の状況

1)所在地 横浜市旭区矢指町 1954-1～2

2)敷地面積 (単位 m²)

訓練センター	955,64
認定試験センター	498,50
計	1454,14

3)建物 (単位 m²)

区分	構造	延床面積	主な施設
訓練センター	木造2階建て	497,70	事務室、ミーティングルーム、ケネルブリーディングルーム、グルーミングルーム、共同訓練用居室(4室)、食堂、厨房、浴室、多目的ルーム
認定試験センター兼老犬ホーム	木造平屋建て	188,79	犬用医療室、老犬ルーム、多目的ルーム、ゲストルーム